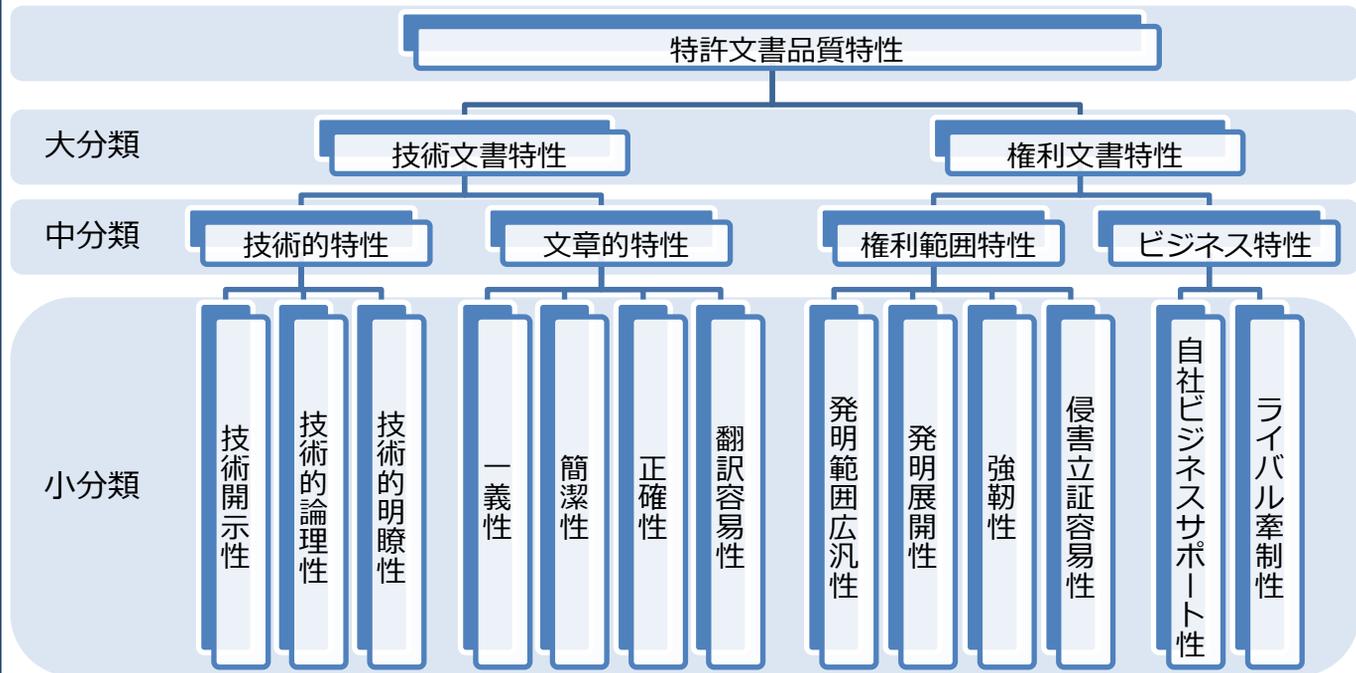


特許文書品質の標準化および定量化に向けた検討（令和元年度） 産業日本語研究会「特許文書分科会」

当分科会では、明晰であるために必要な特許文書の「品質」を標準化および定量化すべく、平成28年度より、特許文書品質特性を細分化し検討を行ってまいりましたが、今年度の議論を踏まえ、さらに検討をブラッシュアップいたしました。



品質特性			品質特性の説明
大分類	中分類	小分類	
技術文書特性	技術的特性	技術開示性	発明が十分に説明されている度合い。特許法が要求しているサポート要件、実施可能要件を満足している度合い。
		技術的論理性	論理的である度合い（例えば、クレームと明細書のストーリーとの技術的因果関係が明瞭であること、背景・従来技術・課題・解決手段・効果等のストーリーの筋が通っている度合い）。
		技術的明瞭性	発明の技術的な説明内容が明瞭である度合い。
	文章的特性	一義性	特許文書を構成する文章が一義的に捉えられる度合い。
		簡潔性	特許文書を構成する各文が簡潔である度合い。
		正確性	特許文書を構成する各文に誤りがない度合い。
		翻訳容易性	翻訳のし易さの度合い。
権利文書特性	権利範囲特性	発明範囲広汎性	発明の本質が抽出されており、無用な限定が無い度合い。権利範囲の広さの度合い。
		発明展開性	発明が十分に展開されている度合い。
		強靱性	拒絶、無効になりにくい度合い。
		侵害立証容易性	侵害の立証が容易である度合い。
	ビジネス特性	自社ビジネスサポート性	自社製品をカバーしている度合い。
		ライバル牽制性	ライバルを牽制できている度合い。

特許文書品質特性モデルについて、産業日本語研究会HPにて、詳しい研究成果を公開しております。
特許文書の品質評価の一助になりましたら幸いです。

特許文書品質特性モデル

検索